

訪台日本人旅客数の増加に向け

皆川 榮治

<訪台日本人旅客数>

2月初めのことですが、台湾への日本人客数の増加について、日本台湾交流協会と日本人会の関係者が集まってディスカッションしました。

過去4年間の訪日台湾人旅客数と訪台日本人旅客数を統計してみると次ページの表のようになっています。

このような状況から台湾側でも観光局の主導で訪台日本人旅客の増加を要請する声が強くなっており、日本側でも訪台日本人旅客数を増やす必要があるとの認識が高まっています。

今回の会合は以上を受けて、交流協会が音頭を取り関係者が集まりました。

(単位：千人)

区分\年	2014	2015	2016	2017
訪日台湾人旅客数	2,830	3,677	4,168	4,564
訪台日本人旅客数	1,635	1,627	1,896	1,899

<訪台日本人増加の方策>

今回の会合では、次のような課題と方策が話し合われました。

1. 台湾側の観光プロモーション

- ① 映画テレビのメディア活用により、台湾観光情報を拡散
- ② 南部、東部の観光地を開発し活性化
- ③ 日本企業の研修地として台湾をフル活用

2. 台湾側受け入れインフラ整備等

- ① 入国管理の時間短縮化
- ② 訪台日本人旅客のリピーター増加
特に、台湾独特の風光明媚な観光地への送客の促進
- ③ 東部台湾鉄道の特急電車の混雑解消
指定席の入手が困難のため現在の8両編成を11両編成とし、併せて特急電車を増便。

- ④ 自由席、ファーストクラスの新設
自由席のない台湾鉄道に自由席を導入。またファーストクラスを設け利便性を向上。
- ⑤ 台湾新幹線以外の列車の利便性向上
新幹線以外では空席状況が分からず、窓口でも代替案(次の列車等)を示すことがない不便なサービス状況の改善。
- ⑥ 定額タクシーの新設
台湾第一の景勝地「太魯閣渓谷」等へのタクシー料金を定額制にし、利便性を向上。

台湾ではタクシー料金は安いですが、言葉の通じない外国人観光客は、タクシー料金の交渉は難しく、トラブルが発生することもあり、「午前中・数カ所を回って幾ら」などのパッケージ化が期待される。

<その他私の提案>

旅行会社のツアーは観光地巡りの案内に終始することが多く、台湾人との交流は観光地やお土産店での買い物時の交流のみに終わることが多いものです。

滞在中、現地台湾人との1～2時間でも交流ができれば、大変有意義な時間が持てます。それを機会にメールや手紙のやり取りが始まるなど、交流が長く続きます。旅行パックの中に「日本統治時代の親日家との交流」、「台湾鉄道の成り立ちと切符の購入方法」、「台湾原住民との交流」、「科学園区の経営者との交流」、「台湾人と日本人との文化の違い」、「商売習慣の違い」などを組み込めば良いと思います。テーマに事欠きません。

どうぞ台湾に来て様々な体験をし、台湾人との交流を深められることをお勧めします。